

プロ野球日本シリーズは千葉ロッテマリーンズの優勝で幕を閉じた。

パ・リーグ3位からの日本一ということも驚きだが、もっと驚きなのはシリーズ序盤戦が全国放送されなかったことである。プロ野球人気の低迷もついにここまでできたかと思わせる出来事であった。スポンサーがつかないなどの理由はあるだろうが、一方で同時期に女子バレーボールの世界選手権がゴールデンタイムで連夜放映されていた現実を考えると、プロ野球側は不景気だけの問題として片付けてはいけないう。

SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



とはいえ旧来のスポーツファンからすれば今日のプロ野球人気の低迷は寂しい限りである。かつてのジャイアンツ人気のように多くの人が全国区のスポーツに興味があるという時代ではないのかもしれない。む

クラブ待望論が浮上しているようだ。増え続けるJクラブ、地方でしかも小規模なクラブばかりでは魅力に欠ける。日本いやアジアを代表するようなビッグクラブの出現は低迷する日本スポーツ界の期待でもあ

地域密着、地域の活性化を掲げ、スポーツにより私たちの生活が幸せになることを目標とした。現時点での崇高なる理念をJリーグの各クラブは実現できているのだろうか。現実には十分でないJクラブの実態に

ある。それがあって初めてビッグクラブの存在を認めることができるのである。その幹が十分でないJリーグ、そして日本スポーツ界では、今はビッグクラブを作るより先にやるべきことはたくさんあるはずである。商業的な華やかさを求める前に日本全国に「スポーツ文化」という太い幹を作っていくことが優先課題なのである。

華より太い幹を

しるJリーグの発足を機にマーケティングの対象は全国から地方へと移行しているのである。

そんなJリーグにおいても一部ではマンチェスター・ユナイテッドやレアル・マドリードのようなビッグ

り、またビジネス的にも大いに魅力があるのだろう。しかし、本当に今ビッグクラブが必要なのだろうか。

Jリーグはプロ野球を反面教師として、日本サッカー界の発展、強化と同時に

において今はビッグクラブ待望論より、この理念のさらなる実現を推し進めるべきではないだろうか。

私たちが目指すヨーロッパのクラブモデルでは、そこに暮らす一人一人にとつてまず地域という太い幹が

「ビッグクラブ待望論」に対して答えるならば、「現時点」でJリーグにビッグクラブはいらない。(REGISTA有責任事業組合代表)